

夏のいきもの

気温の上昇とともに、生きものの活動がますます活発になる季節です。春に引き続き、たくさんの草花や、ホタル、セミなどの季節を感じられる昆虫を観察できます。海には熱帯性の魚類が来遊することもあります。

植物

【野山で見られる植物】

ハンゲショウ（半夏生）



- ・ドクダミ科
- ・草本

●見られる時期：（花）6月～7月

花は小さく花弁はないが、花期になると花に近い葉の半分程が白くなり、目立たせます。本州、四国、九州、琉球、朝鮮、中国、東南アジアに分布し、沼地や湿地など水気の多い所に生育します。

ハギ類（萩） ※写真はミヤギノハギ



- ・マメ科ハギ属の総称
- ・草本、木本

●見られる時期：（花）8月～9月

夏から秋にかけて花が咲きます。市内の野山ではマルバハギやキハギが見られ、公園等では植栽されたミヤギノハギがよく見られます。

【海岸で見られる植物】

ハマボウ（浜朴）



- ・アオイ科
- ・木本

●見られる時期：（花）7月～8月

中心が赤褐色の黄色い花が咲きます。ムクゲやフヨウ、ハイビスカスと同じなかまであり、それらによく似た花の形をしています。花は1日でしぼみます。秋から冬には、ハート型の葉が赤や黄色に紅葉します。

塩分に強く、野生のものは市内の海岸近くで見られます。太平洋側での分布は千葉県以西で、市内のものは北限に近いです。

ハマオモト（浜万年青）

別名：ハマユウ



- ・ヒガンバナ科
- ・草本

●見られる時期：（花）7月～9月

白く細長い花を咲かせます。日没頃に花が開き、甘い香りを発します。横須賀市佐島（天神島）の群生地が北限の自生地として県の天然記念物に指定されていて、「横須賀市の花」となっています。

昆虫

ニイニイゼミの初鳴き



- 初鳴きの時期：6月下旬～7月上旬
(8月まで鳴きます)

三浦半島に生息しているセミ6種のうち、いちばん小さく、いちばん早い時期に鳴き始めるセミです。木の幹などに残る羽化殻もまた小さく、土で汚れているのも特徴です。

ツクツクボウシの初鳴き



- 初鳴きの時期：8月上旬～中旬
(9月まで鳴きます)

三浦半島ではいちばん遅い時期から鳴き始めるセミです。この鳴き声を聞くと、夏休みもいよいよ後半。猿島などの海沿いの場所では、7月から鳴き始めるものがあります。

カナブン



- 見られる時期：6月中旬～8月中旬
- 樹液によく集まり、鈍い金属光沢の体色は緑色から赤銅色まで様々。三浦半島には同じサイズで真っ黒なクロカナブンという近縁種が、7月下旬～9月中旬に遅れて発生します。

ハイケボタル



- 見られる時期：6月～7月
- 水田やため池などで発生します。ゲンジボタルより遅い時期に出現し、体はゲンジボタルより小さく、発光は小さく早く点滅します。8月にも発光を観察できることがあります。

アオバハゴロモの羽化



●見られる時期：7月中旬～8月中旬
(成虫は11月中旬まで見られます)
「鳩虫(はとむし)」とも呼ばれます。6月頃から樹木の枝や葉で白い綿状の分泌物に覆われた幼虫を目にしますが、成虫になると大きな翅(はね)が目立つ姿に変わります。

ヤブキリ



●見られる時期：7月～9月中旬
春から活動を始める幼虫が、草地の花や葉の上で活動するため、比較的見つけやすい種です。他のキリギリスの仲間が秋から鳴くのに対して、7月には羽化して鳴き始めます。

ショウジョウトンボ



●見られる時期：7月～8月
ため池や水田などで発生し、オスは翅(はね)を除いた全身が真っ赤になる、身近な「赤とんぼ」の一つです。メスの体は枯れ草のような色をしています。

魚類・両生類

クサフグの産卵



●見られる時期：5月～6月

体長 10cm 前後の小型のフグです。5～6月の大潮の日の夕方、海岸に体を乗上げて、寄せる波の中に産卵します。産まれた卵は、砂や岩に着き、1週間ほどでふ化します。

熱帯性魚類の来遊

【夏秋に掲載】

※写真はトゲチョウチョウウオ



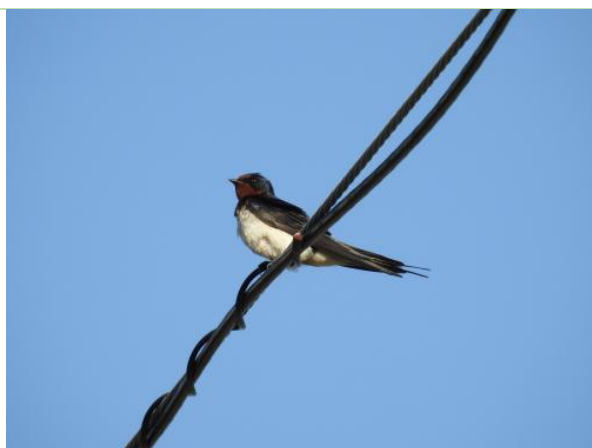
●見られる時期：7月～10月

サンゴの海で生まれたトゲチョウチョウウオは、夏にやってきて、冬の寒さで死んでしまいます。このような魚たちを「死滅回遊魚」や「季節来遊魚」などと呼びます。

鳥

ツバメの飛来

【春夏に掲載】



●見られる時期：3月～9月

春から夏に1～2回の産卵をし、9月までに子育てを終えます。親鳥と巣立ったヒナはヨシ原などに集まり、やがて越冬地の東南アジアなどの熱帯・亜熱帯地域へと旅立ちます。